

# 阿蘇くまもと空港アクセス鉄道整備に伴う大津町のまちづくり

- 大津町では阿蘇くまもと空港アクセス鉄道の肥後大津ルート決定(令和4年12月)を契機として、新たなまちづくりの検討や、都市計画の見直し等に着手
  - 肥後大津駅周辺まちづくり、都市計画マスタープランの改定、立地適正化計画の策定 等
- 鉄道開通というまたとない好機を町の発展に結び付けるとともに、生じる課題にも対応するためのまちづくりを推進

## 県が公表した空港アクセス鉄道ルート案を踏まえ、今後、各検討をさらに具体化

### <肥後大津駅周辺>

- 空港アクセス鉄道の開通に伴い、更なる利用者の増加が見込まれる
- 町の中心市街地でもある肥後大津駅周辺において、交通結節機能の強化、利便性の向上、賑わいの創出等の観点からまちづくりを推進
- 鉄道の影響を受ける「陣内踏切」においては、渋滞対策や安全対策の観点から、道路整備等の対応を検討
- 鉄道が通過することになる「大津中央公園」については、現状の機能を確保しつつ、より良い公園となるようリニューアルを検討

### <中間駅周辺>

- 今後の人口増加の見込みや将来的な都市構造を踏まえると、新たな市街地の創出に向けた検討を進める必要がある
- 現状の住宅開発の動向や都市機能の状況、将来的に公共交通利便性が高まることに加え、南部・東部地域の発展等の観点から、中間駅の設置と、その周辺における利便性の高い新市街地の創出に向けた検討を進める



# くまもとサイエンスパーク推進ビジョン

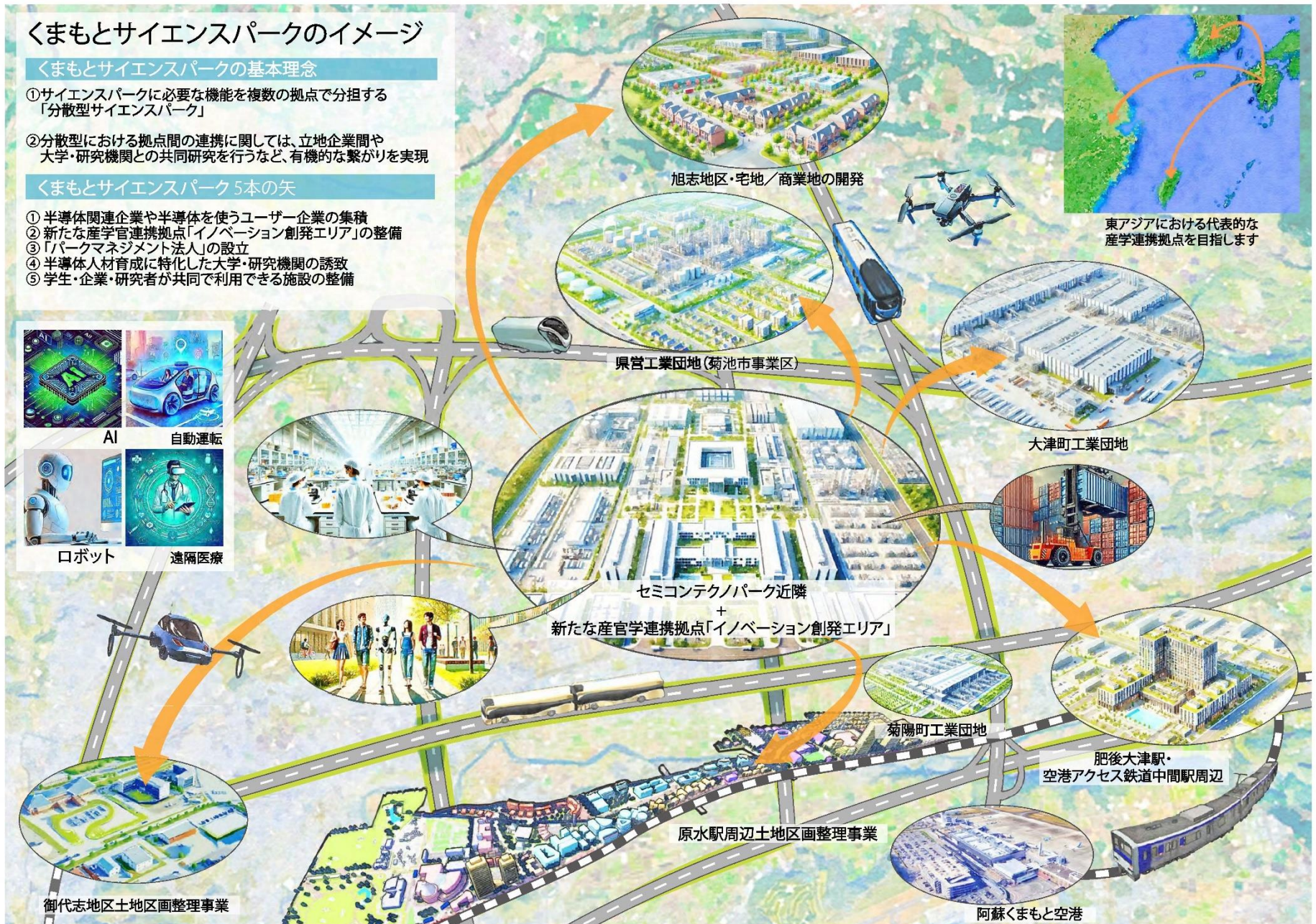
## くまもとサイエンスパークのイメージ

### くまもとサイエンスパークの基本理念

- ①サイエンスパークに必要な機能を複数の拠点で分担する「分散型サイエンスパーク」
- ②分散型における拠点間の連携に関しては、立地企業間や大学・研究機関との共同研究を行うなど、有機的な繋がりを実現

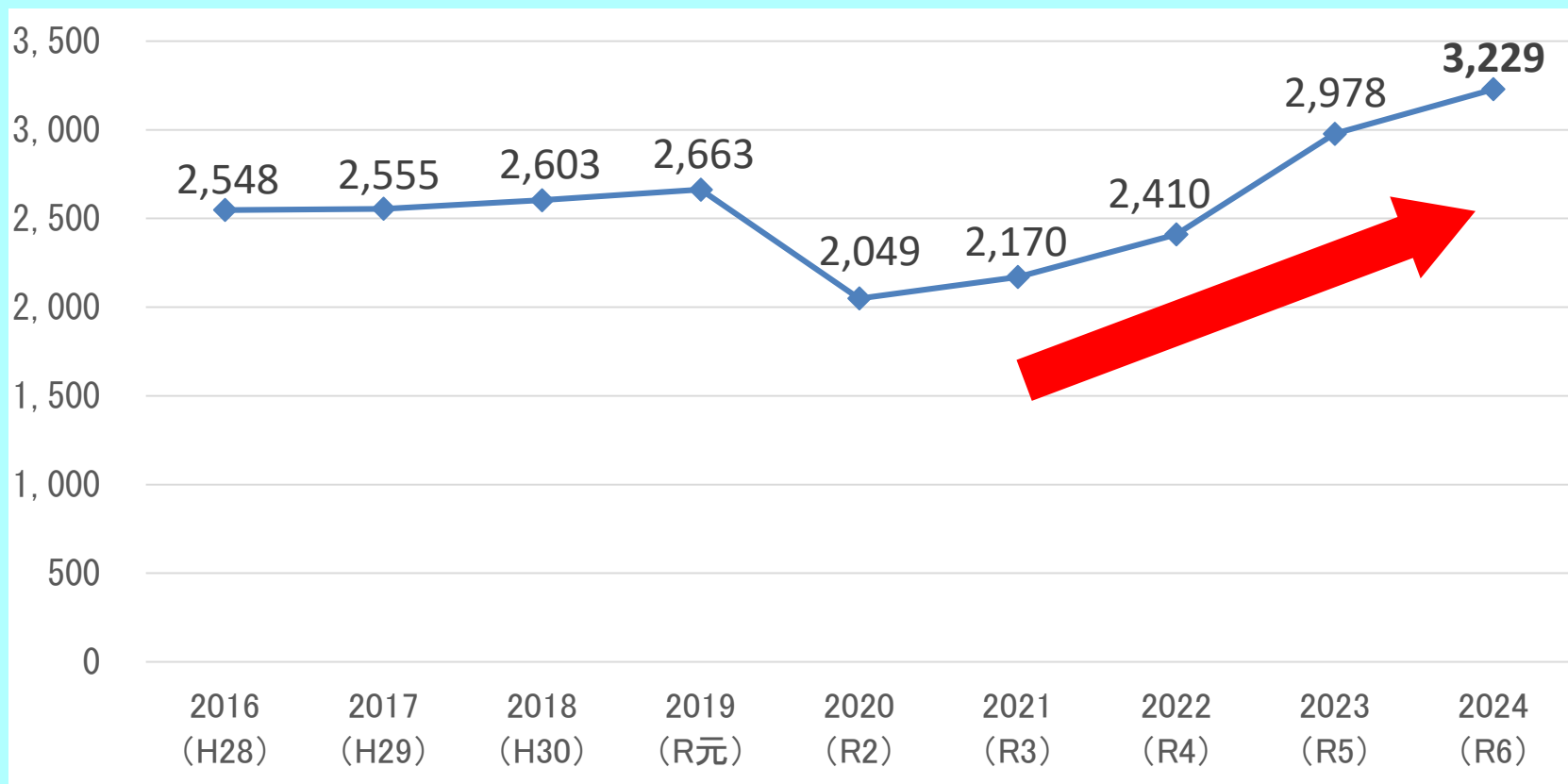
### くまもとサイエンスパーク5本の矢

- ①半導体関連企業や半導体を使うユーザー企業の集積
- ②新たな産学官連携拠点「イノベーション創発エリア」の整備
- ③「パークマネジメント法人」の設立
- ④半導体人材育成に特化した大学・研究機関の誘致
- ⑤学生・企業・研究者が共同で利用できる施設の整備

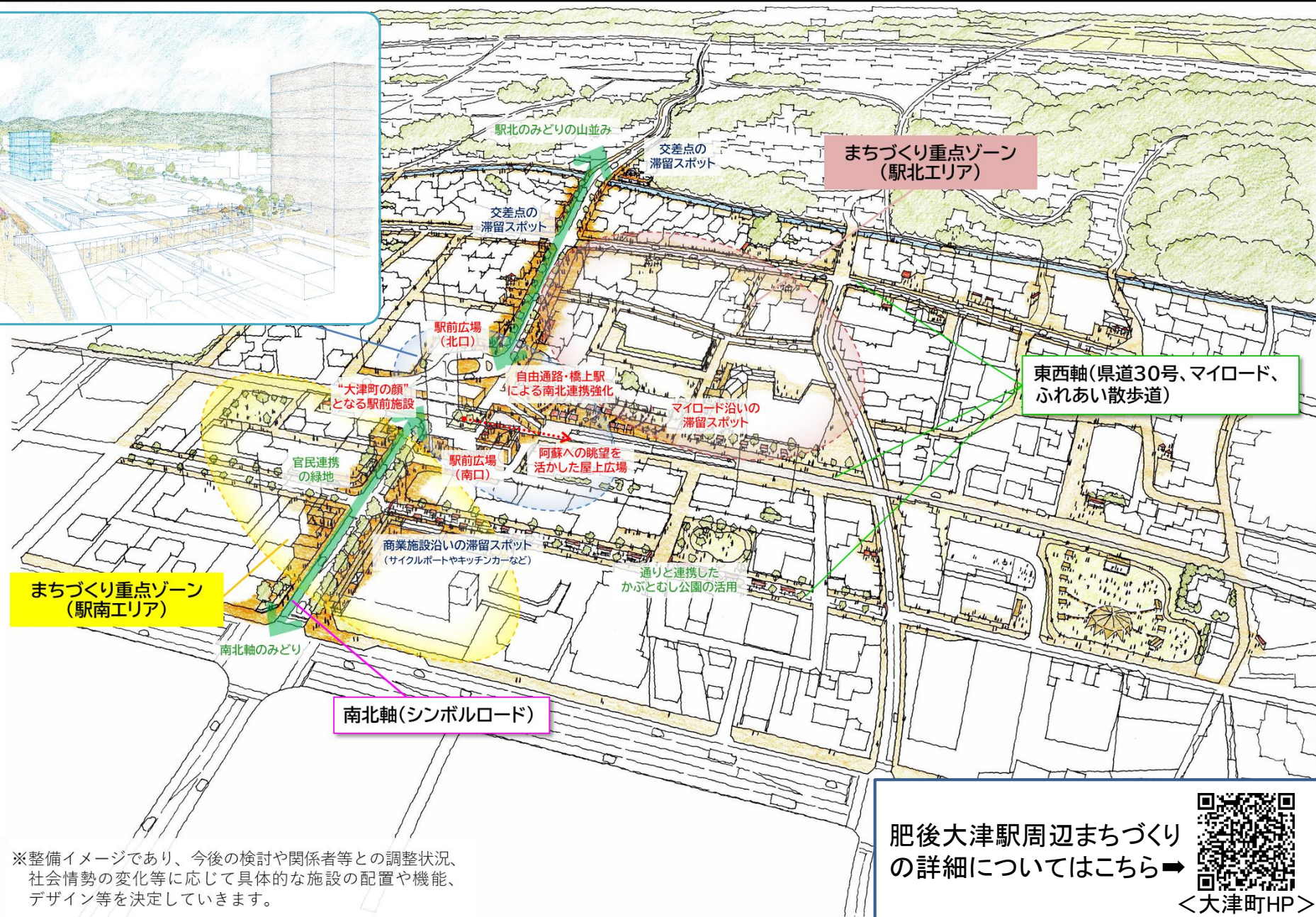
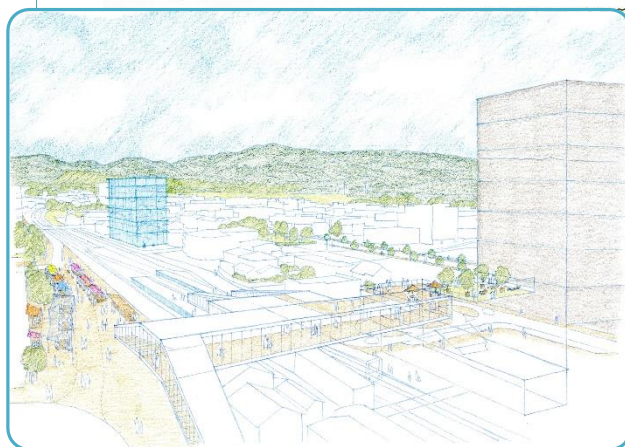




肥後大津駅の一日平均乗車人数



- 肥後大津駅の乗車人数は増加傾向にあり、2024年度時点で1日あたり約3,229人（県内4位）
- 将来的に、空港アクセス鉄道が開通すれば、さらに増加することが想定される



※整備イメージであり、今後の検討や関係者等との調整状況、社会情勢の変化等に応じて具体的な施設の配置や機能、デザイン等を決定していきます。

肥後大津駅周辺まちづくり  
の詳細についてはこちら➡



＜大津町HP＞







○令和7年8月27日にJR九州と合同記者会見を開催し、「肥後大津駅周辺まちづくり基本計画」を公表

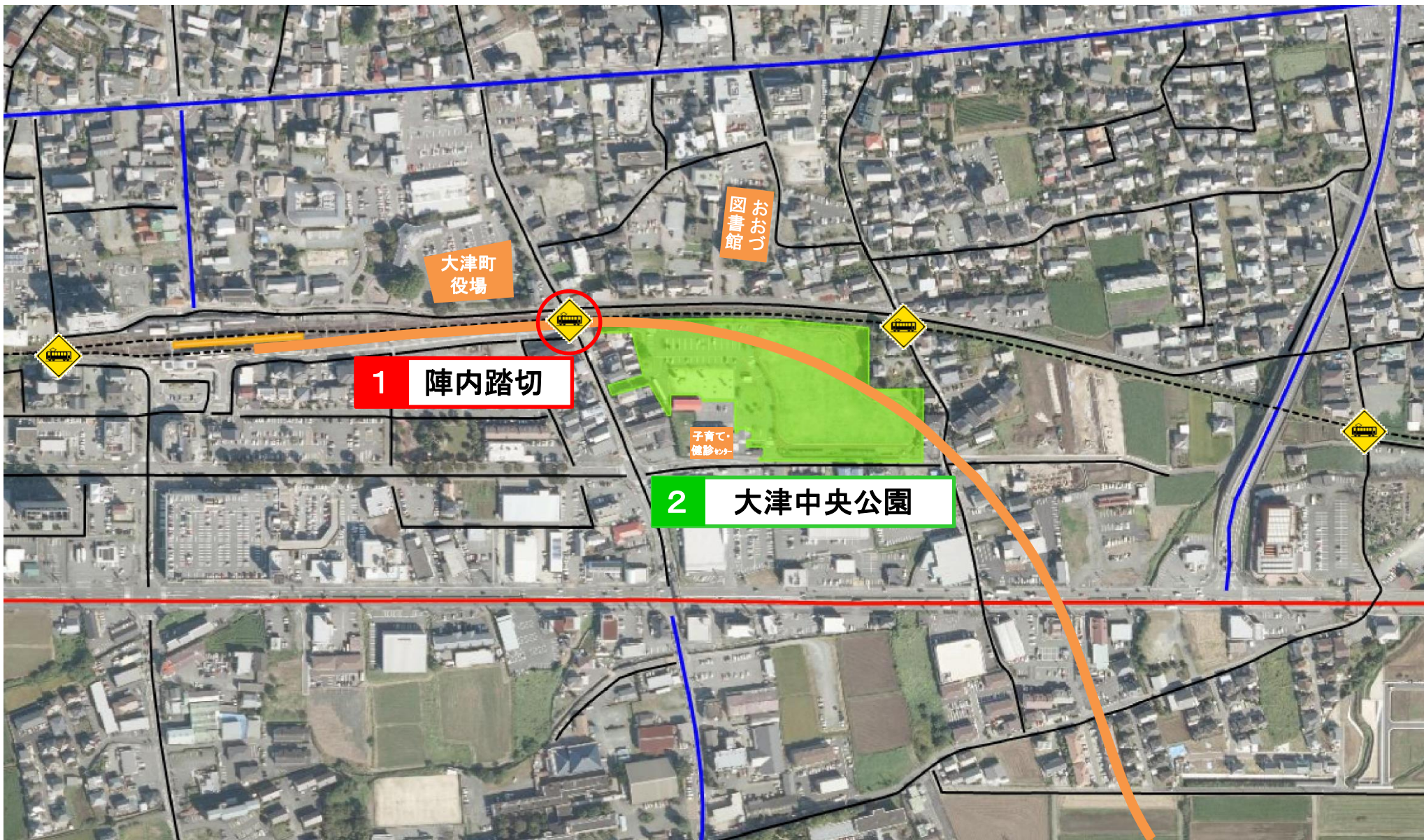
○JR九州も「(仮称)JR肥後大津ビル開発計画」を公表





- 肥後大津駅北口バス転回広場を令和7年10月1日に供用開始
- セミコンテクノパーク方面通勤バスについても同日運行開始







## 1

## 陣内踏切における対応

## アクセス鉄道の影響

## ▶ 踏切遮断回数の増加

＜アクセス鉄道運行本数（片方向）＞

普通：47本／日（豊肥本線普通：50本／日）

快速：14本／日

※運行本数は現時点での見込み



## 町の対応

## ＜対応方針＞

踏切遮断回数が増加しない位置において  
南北道路を整備し、交通量を分散

## ＜これまでの対応＞

- ・交通量調査、交通量推計等の実施
- ・調査結果を踏まえた対応方針の検討
- ・県との協議（「2 大津中央公園における対応」に合わせた周辺道路の見直し等）

## ＜今後の対応＞

- ・県と連携し、南北道路の具体的な線形や踏切の安全対策等について検討



## 2

## 大津中央公園における対応

## アクセス鉄道の影響

## ▶ 公園区域の分断

＜大津中央公園の位置づけ＞

- ・都市公園であり、区域面積は20,800㎡  
(下図 ■ の範囲)
- ・屋外避難場所であり、防災機能を有する



## 町の対応

## ＜対応方針＞

区域面積も含め、現状と同等の機能を確保しつつ、より良い公園となるようリニューアル

## ＜これまでの対応＞

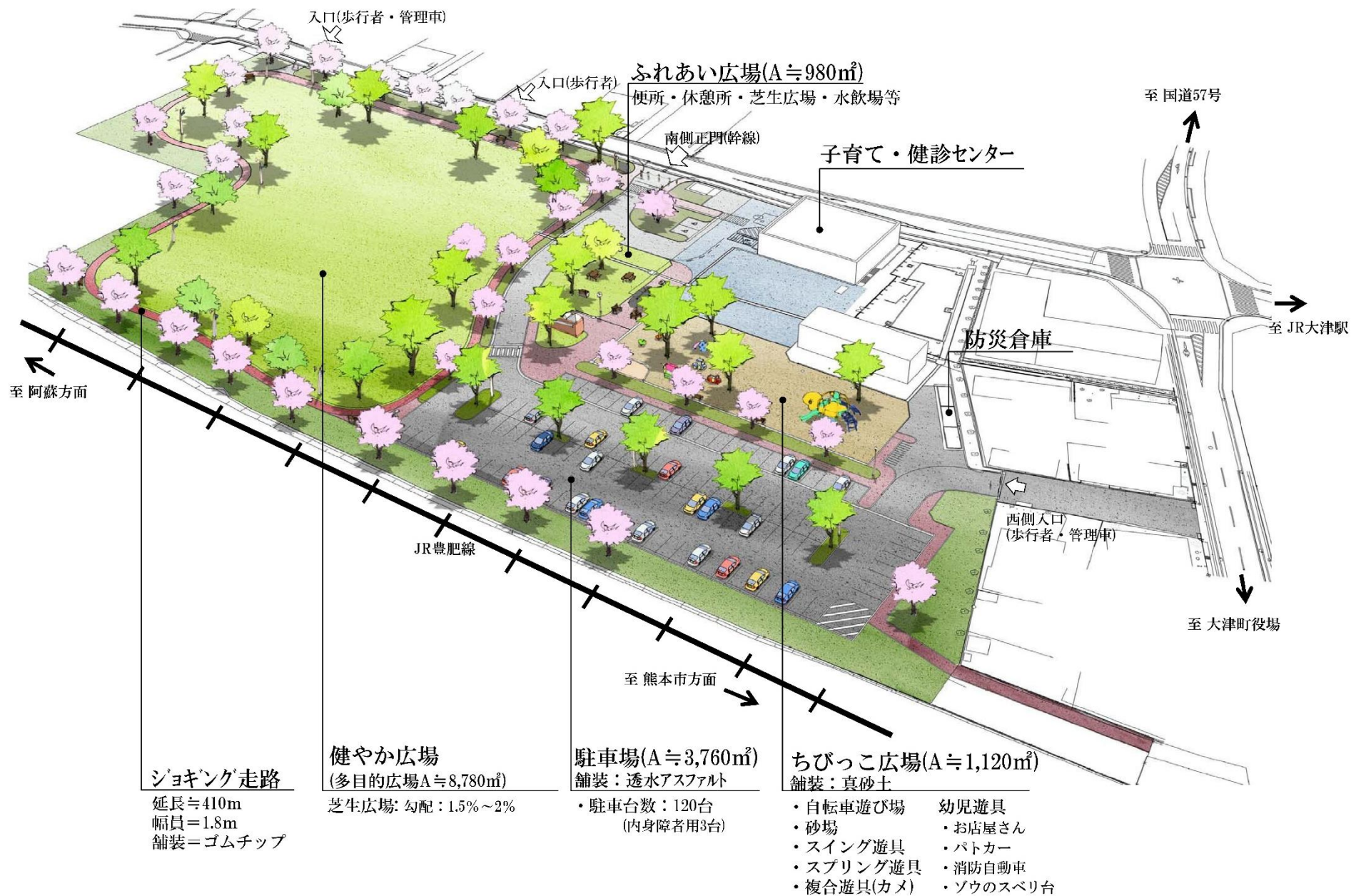
- ・公園への影響を最小化できる(リニューアルしやすい)ルート案について、県と協議
- ・リニューアル後においても、現行と同等の公園機能や防災機能が確保されるよう県と協議

## ＜今後の対応＞

- ・県と連携し、具体的なリニューアル案について検討(町民意見を反映する場も設ける予定)
- ・併せて、周辺施設の在り方(複合化等)も検討

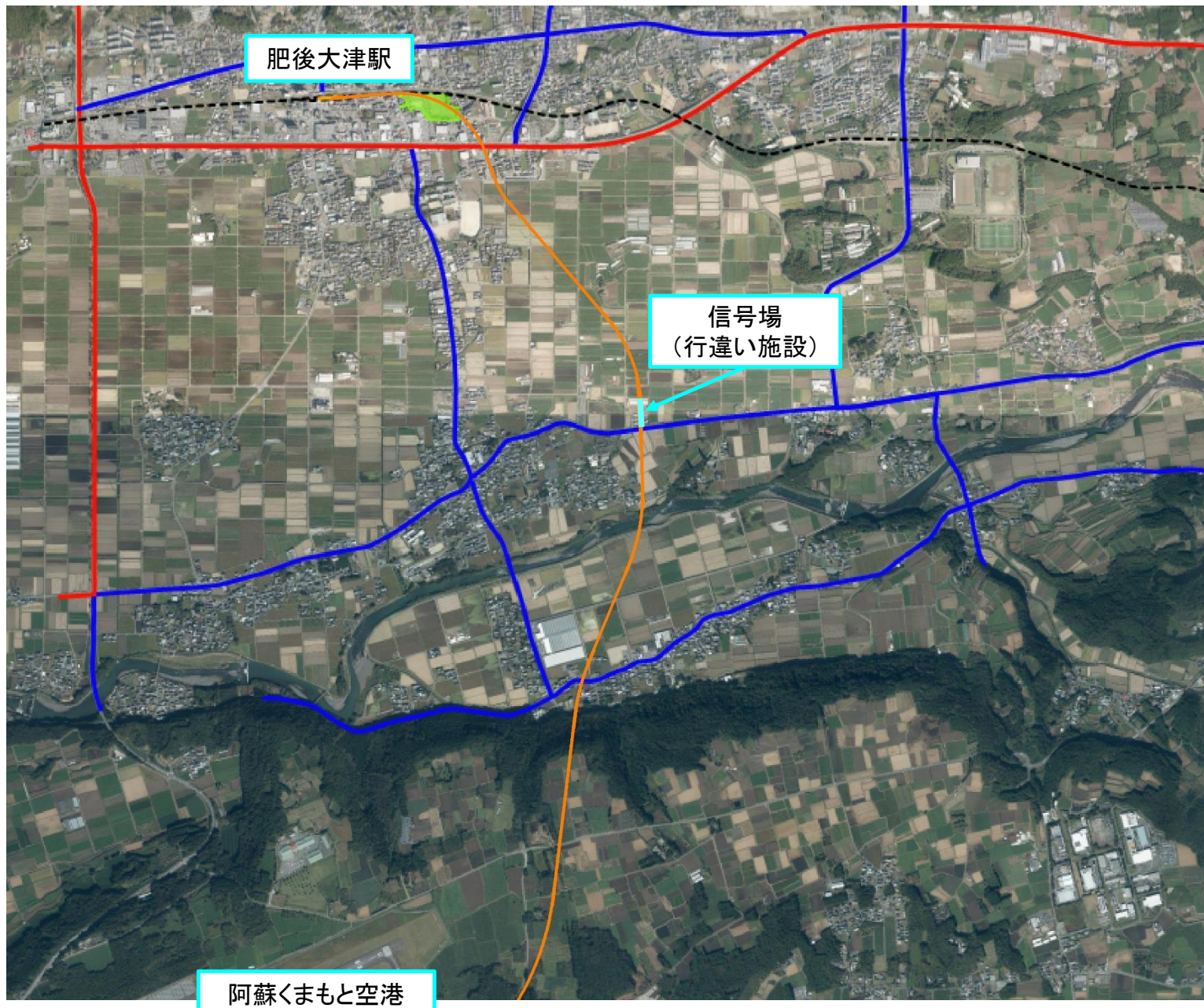


# 大津中央公園機能(平成22年作成)

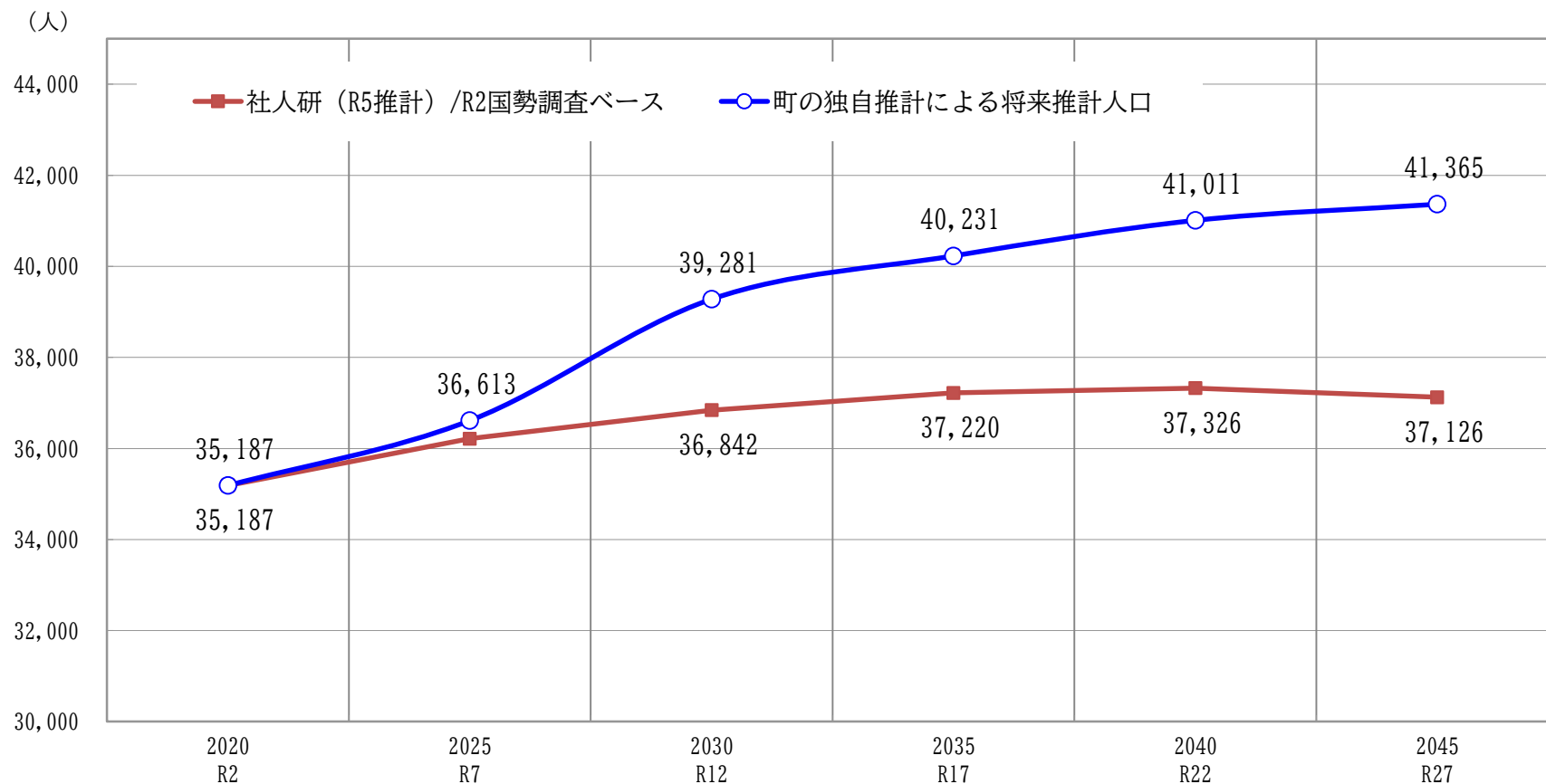




## 中間駅周辺の設置を目指す位置



## 人口の推移(推計)

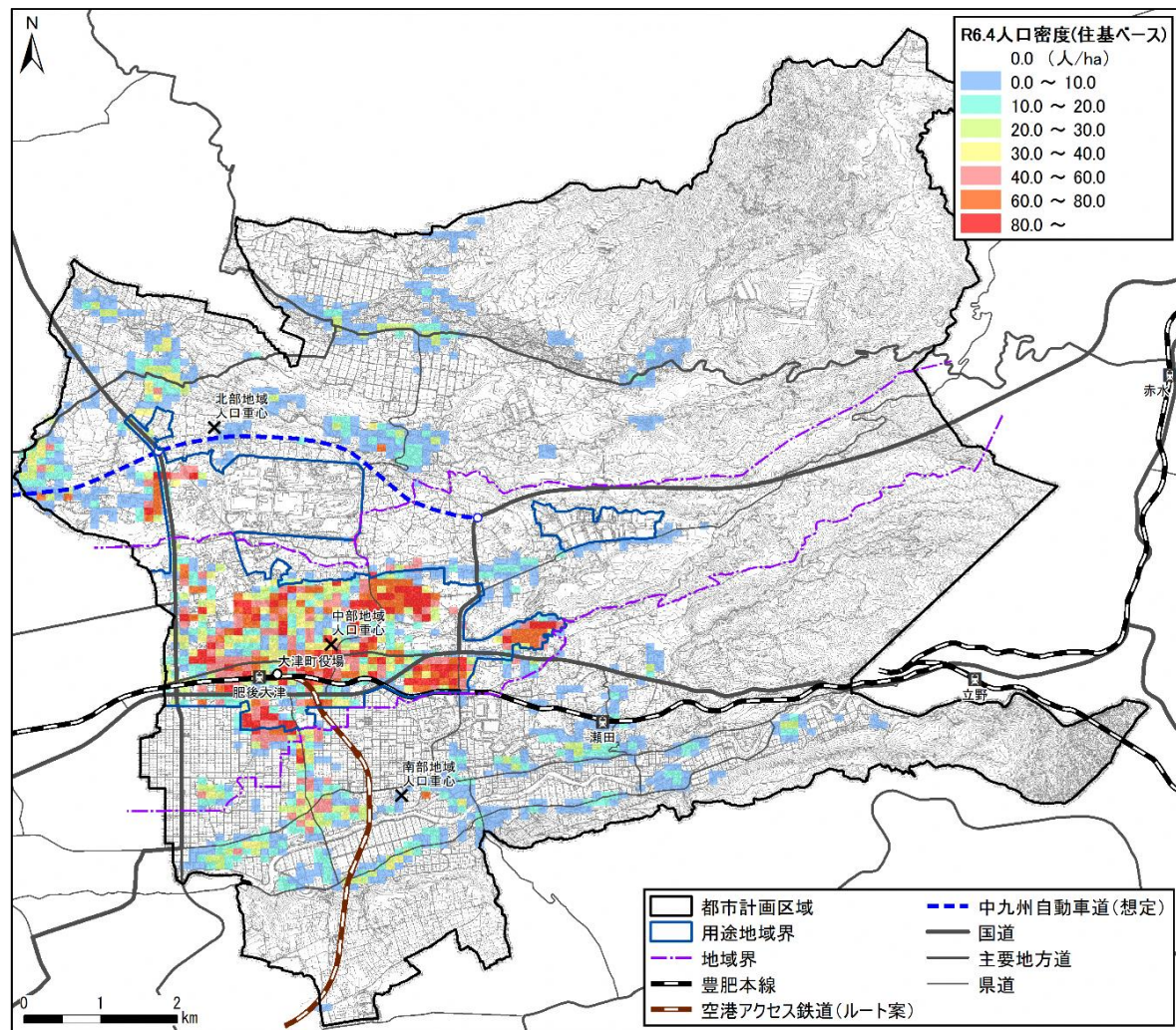


- 本町の直近の人口増加率や半導体関連企業の集積による人口増加率を反映した町独自の推計では、2040年以降も人口が増加する見込み
- 今後も住宅開発が増加した場合、さらなる人口増加の可能性も想定される

➤ 増加する人口への対応が必要

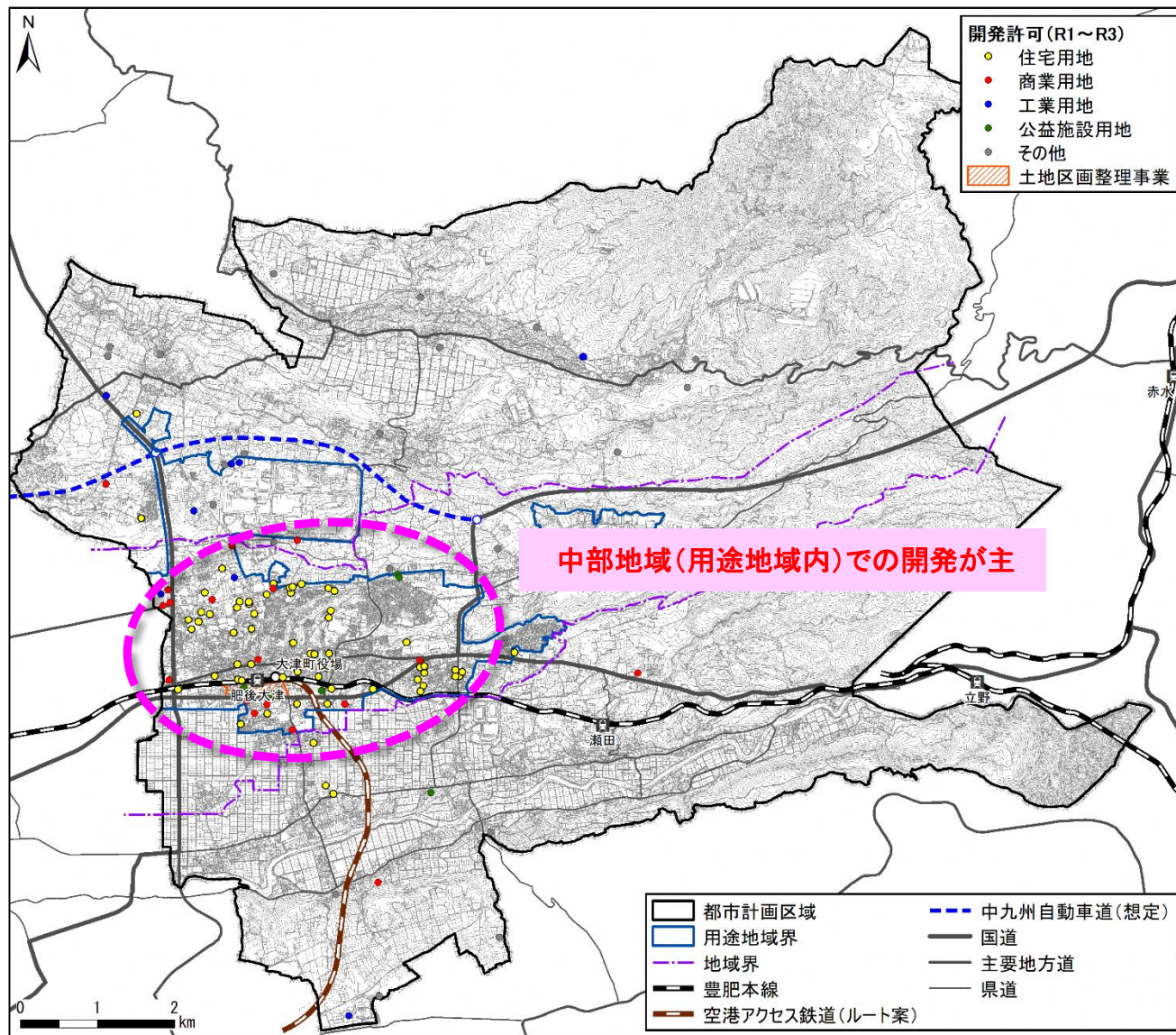


## 人口密度の分布（R6.4.1時点の住基ベース）



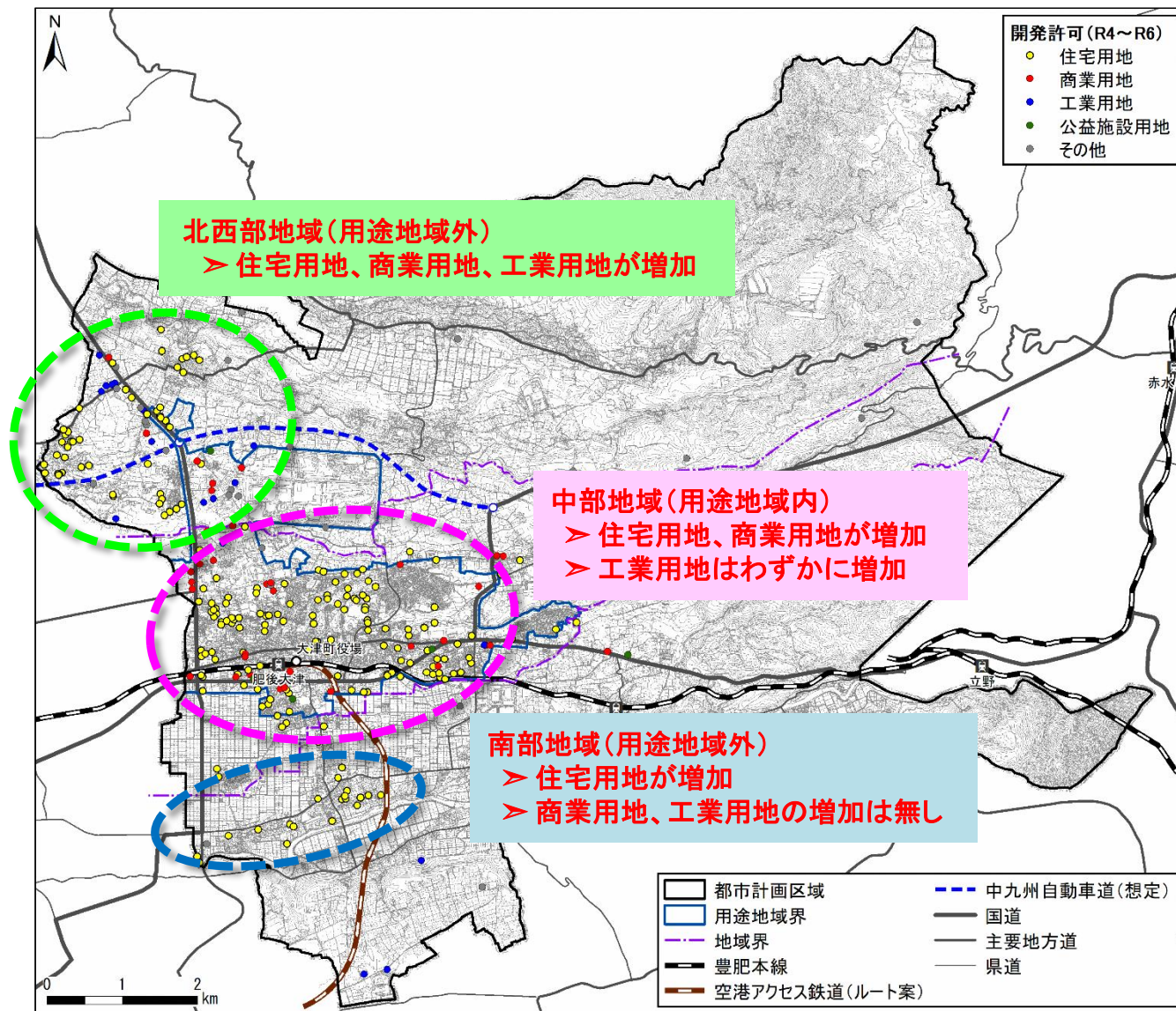
○ 南部地域は地域幹線道路(県道矢護川大津線・県道瀬田竜田線)沿線に人口が分布。

## 開発動向（R元年度～R3年度）

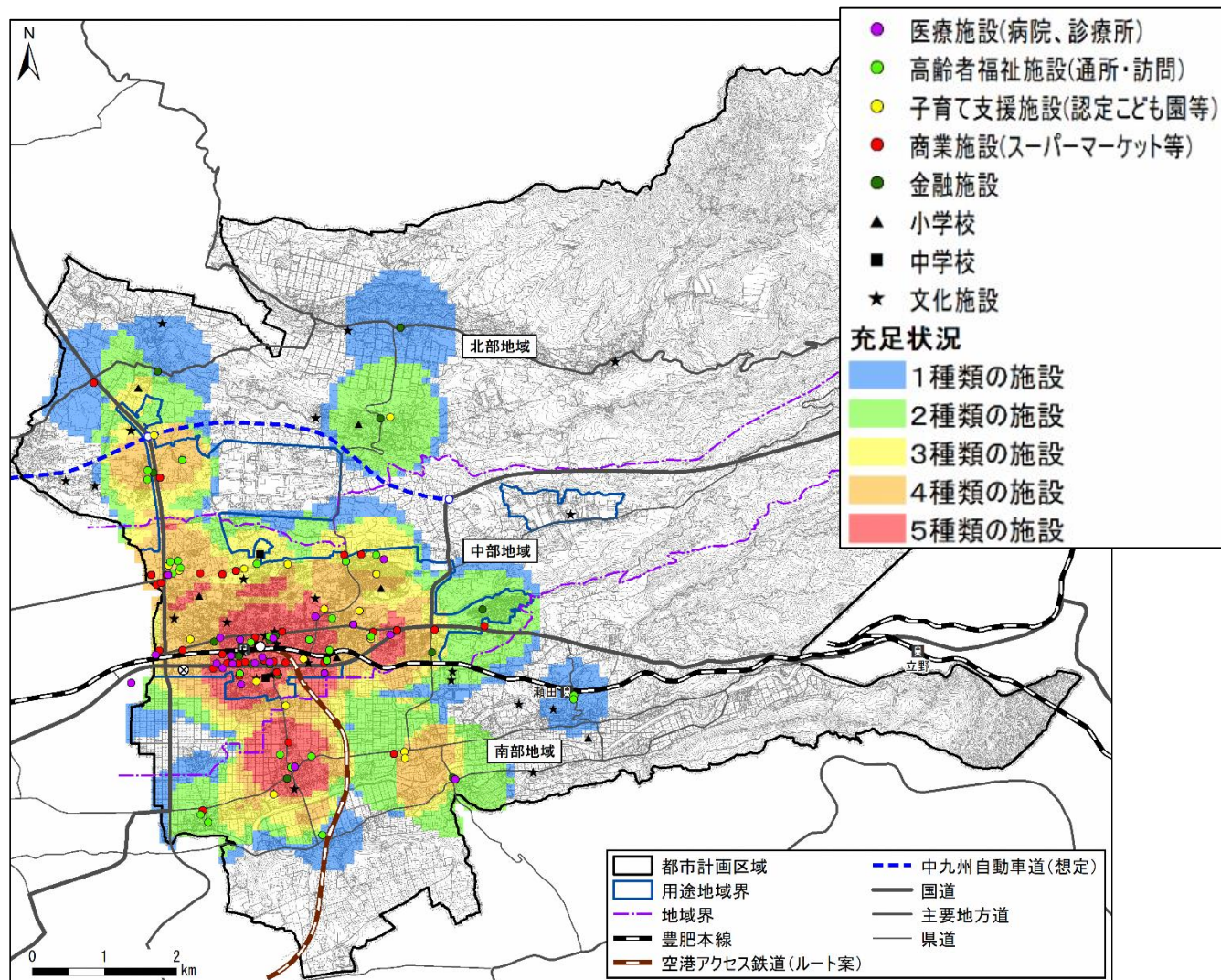




## 開発動向（R4年度～R6年度）



## 都市機能の分布（生活利便性）



○ 南部地域では陣内に都市機能が集積しているが、商業施設はコンビニエンスストアのみ











## 町民意向（アンケート調査結果）

あなたは、土地利用について、どんな取り組みが重要だと思いますか。あなたの考え方に最も近いものをお選びください。

【2つまで○印】

「無秩序な開発を防止する」が約35.2%と最も多く、次いで「中心市街地以外の市街地において機能充実を図る」が約28.9%となっている。

複数回答

件数	比率	選択肢	グラフ
385	27.7%	1 中心市街地の機能充実を図る	 27.7%
402	28.9%	2 中心市街地以外の市街地において機能充実を図る	 28.9%
346	24.9%	3 市街地の周辺の機能充実を図る	 24.9%
377	27.1%	4 田畑などの農地を計画的に保全し、営農環境の整備を進める	 27.1%
266	19.1%	5 山林や河川などの自然環境を保全する	 19.1%
489	35.2%	6 無秩序な開発を防止する	 35.2%
23	1.7%	7 その他	 1.7%
72	5.2%	無回答	 5.2%
2,360	—	計	

回答者数…1,390人

## 町民意向（アンケート調査結果）

あなたがお住まいを決める条件として重要なことは何ですか。【3つまで○印】

「スーパーなど日常利用する店舗などへの行きやすさ」が約57.8%と最も多く、次いで「職場からの距離・職場への通勤便利性」が約40.4%、「病院、福祉施設などへの行きやすさ」が約38.1%となっている。

複数回答

件数	比率	選択肢	グラフ
562	40.4%	1 職場からの距離・職場への通勤便利性	40.4%
375	27.0%	2 土地、建物の価格や家賃	27.0%
803	57.8%	3 スーパーなど日常利用する店舗などへの行きやすさ	57.8%
530	38.1%	4 病院、福祉施設などへの行きやすさ	38.1%
214	15.4%	5 幼稚園、保育所、学校などの環境や行きやすさ	15.4%
162	11.7%	6 道路や公園などの都市基盤、まちなみがきれいに整備されている	11.7%
345	24.8%	7 バス、鉄道などの公共交通の利便性	24.8%
249	17.9%	8 防犯、防災上の安全性	17.9%
174	12.5%	9 地域の雰囲気（近所づきあいのよさ、地域活動の充実等）	12.5%
186	13.4%	10 自然環境の豊かさ	13.4%
122	8.8%	11 実家の継承や実家からの近さ	8.8%
13	0.9%	12 その他	0.9%
40	2.9%	無回答	2.9%
3,775	—	計	

回答者数・・・1,390人

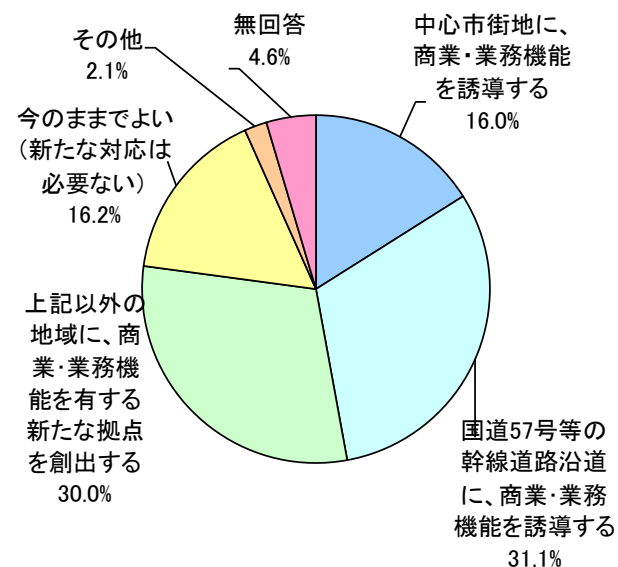


## 町民意向（アンケート調査結果）

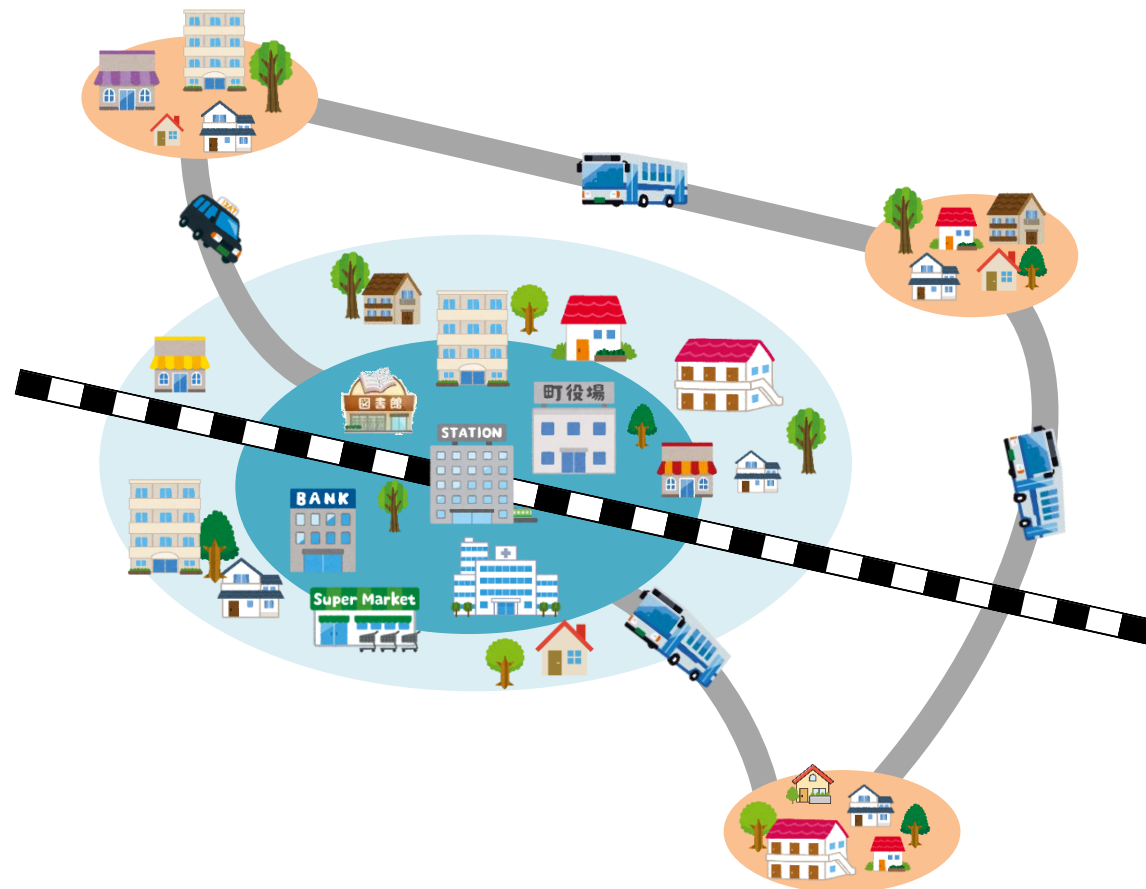
あなたは、これからの商業・業務地（店舗や事業所等の土地利用）の整備についてどう思いますか。【ひとつに○印】

「国道57号等の幹線道路沿道に、商業・業務機能を誘導する」が約31.1%と最も多く、次いで「上記以外の地域に、商業・業務機能を有する新たな拠点を創出する」が約30.0%となっている。

件数	比率	選択肢
223	16.0%	1 中心市街地に、商業・業務機能を誘導する
432	31.1%	2 国道57号等の幹線道路沿道に、商業・業務機能を誘導する
417	30.0%	3 上記以外の地域に、商業・業務機能を有する新たな拠点を創出する
225	16.2%	4 今のままでよい（新たな対応は必要ない）
29	2.1%	5 その他
64	4.6%	無回答
1390	100.0%	計



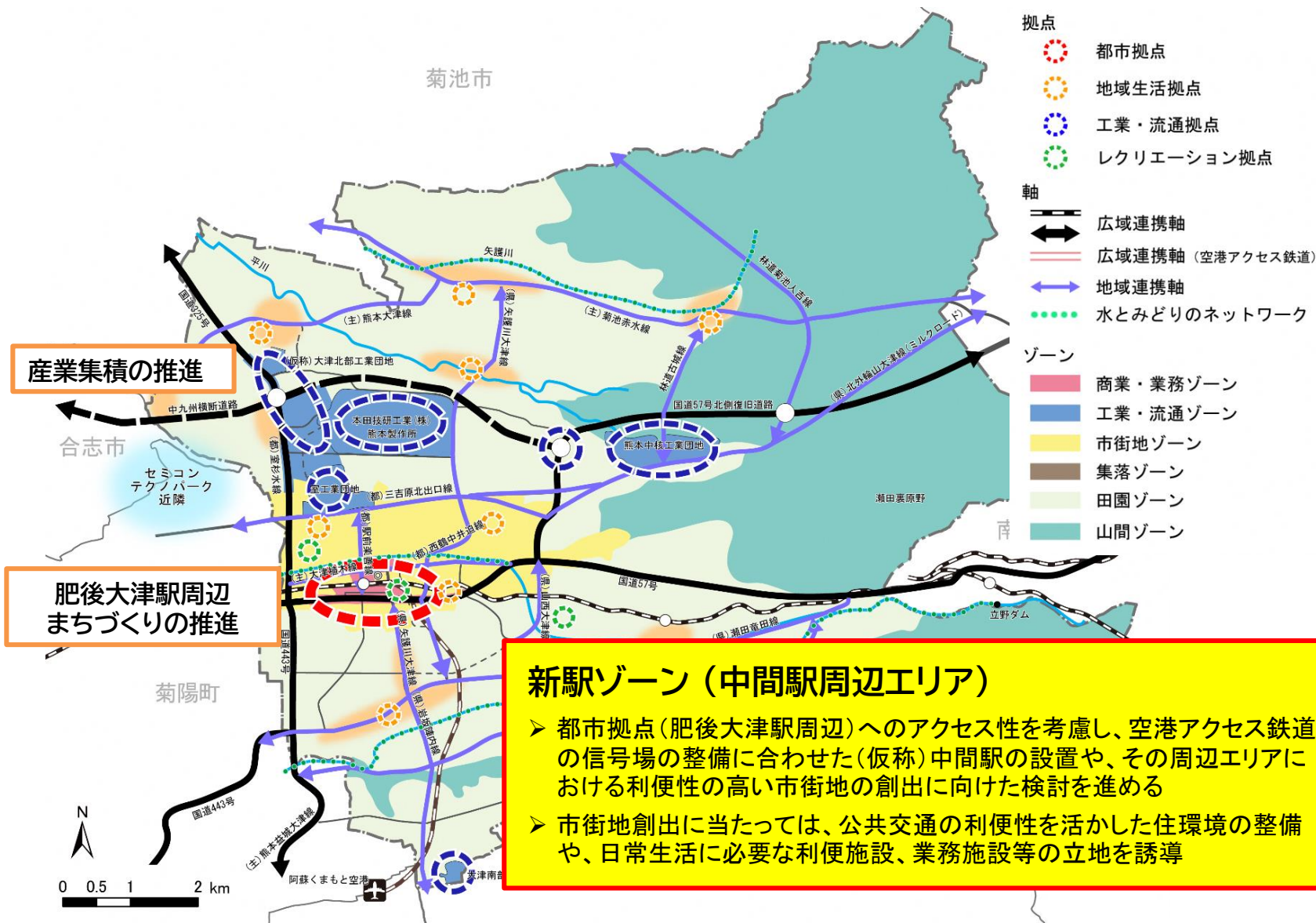
## コンパクト・プラス・ネットワーク



- 医療、商業等の生活サービス施設や公共交通の維持には、一定の人口集積が不可欠。
- 市街地が薄く広がった場合、これらサービスが維持できなくなり、地域経済が衰退するおそれ。  
⇒ 居住を公共交通沿線や日常生活の拠点に緩やかに誘導し、人口集積を維持・増加させることで、  
**コンパクト・プラス・ネットワークによるメリハリのある土地利用を推進**



## 大津町都市計画が目指す将来像



## 他地域事例：杜せきのした駅周辺（宮城県名取市）



出典: Google Earth

- 仙台空港アクセス鉄道の整備を背景に、新駅の設置と周辺まちづくりを実施
- 住宅や商業施設、保育所、診療所等の生活利便施設が集積





出典:Google Earth

- 2006年4月の先行整備街区の街びらき以降、基盤整備の進捗に応じて住宅、店舗等の建設や、小中学校、公園等の公共施設整備も徐々に進展。
- 近年は子育て世代を中心に人口が急増しつつある。

- 令和5年度に、武庫川周辺阪急新駅「えきまちづくり勉強会」(全4回)を開催
- 毎回テーマを設定し、講師からの事例紹介と参加者による意見交換を実施

回	テーマ	意見交換の内容
第1回 (9月9日)	鉄道駅周辺のまちづくり	① 新駅が出来てこんなまちにしたい。だからこんなことをしたい。 ② 新駅が出来るとこんな問題が出そう。だからこうしたい。
第2回 (11月19日)	えきづくり・まちづくり	① 新駅やそのまわりは、こんな場所になるといいな。 ② 新駅やそのまわりで、私はこんなこと(活動など)をやってみたい。
第3回 (1月21日)	交通・安全のまちづくり	① 地図上の道路で「あぶないと思うところ」(1人3か所)に青丸シールを貼る。 ② 班で話し合い、現状で「特にあぶないところ」1か所を選び、赤丸シールを貼る。 ④ 「特にあぶないところ」の要因を班で分析。 ⑤ 「特にあぶないところ」にはどのような対策が考えられるか意見交換。
第4回 (3月17日)	少しよい日常のための 公共空間での過ごし方	① 「どう過ごしてみたいか」「やってみたいこと」を考えてみよう。 ② 「どんな状態になったらやりやすいか」を考えてみよう。

### <主な意見>

- ・ 武庫川、緑、閑静な住宅地と利便性の両立
- ・ 子育てしやすく、便利で活気のある街
- ・ 生活利便施設、文化・医療施設等が欲しい
- ・ 歩きやすく安全な道路
- ・ 駅前の空間でゆっくり過ごしたい



出典：尼崎市HP



## 他地域事例：新駅まちづくり構想（群馬県安中市）



出典：安中市HP

- アンケート調査や市民ワークショップを通じて「みんなが想う未来のまちづくりのイメージ(案)」を作成。
- 市民意向を参考に、今後具体的な検討を進める。

## 都市計画への位置づけ

改定中の「都市計画マスタープラン」及び策定中の「立地適正化計画」に新駅ゾーン(中間駅周辺エリア)を位置付け。

## まちづくりに関する住民意向の確認

(仮称)中間駅を基点として、どの位置に、どれだけの規模の市街地を創出し、どのような機能を誘導するか等の検討を進めるためは、住民意向の把握が必要。

そのため、地域住民との意見交換会や意向調査等を実施。

### 【直近のスケジュール(予定)】

- |       |                                   |
|-------|-----------------------------------|
| R8年1月 | 第5回都市計画審議会(空港アクセス鉄道ルート案を踏まえて開催)   |
| 2月    | パブリックコメント(都市計画マスタープラン 及び 立地適正化計画) |
| 3月    | 第6回都市計画審議会(パブリックコメントの結果を踏まえて開催)   |
|       | <b>都市計画マスタープラン改定 ・ 立地適正化計画策定</b>  |
| 4月～   | まちづくりに関する地域住民との意見交換会等             |